



石岡市議会議員

櫻井 茂

活動報告

令和4年(2022年)

2月21日発行 第27号

■発行/櫻井しげる後援会 ■住所/315-0013 茨城県石岡市府中3-11-28
 ■電話/自宅 0299-22-3881 ■FAX/0299-22-3881 ■携帯 080-3150-8451
 ■WEB <http://www.sakurai.click/> ■E-Mail sakurai@sakurai.click
 ■Facebook <https://www.facebook.com/shige.sakurai.3> **討議資料**



令和4年スタートと同時に新型コロナウイルス感染症陽性者数が急増しています。石岡市内でも学校・幼稚園・保育園等から児童・生徒・職員の感染が続いています。陽性の子供達の多くは無症状であり、その感染力からオミクロン株と思われます。予防対策ではしばらく我慢の日が続きます。

第2回臨時議会は、石岡市議会の現状が良くわかる質疑と議事運営となりました。新型コロナ対応に向けた予算措置は今後も繰り返されると思います。その際、的を射た質問と答弁が行われ、市民福祉の向上に寄与する議会となっているのに関心を寄せてください。今後も、ご指導ご鞭撻をお願いします。

(1) 体制の維持 石岡地域における医療体制を将来にわたり維持していくための支援を行います。 ①病院群輪番制への補助 ②子ども休日診療の実施 ③在宅当番医制の実施 ④県や近隣市との連携	(2) 体制の発展 石岡地域のより良い医療体制の構築に向けて、新たな支援策の展開を図ります。 ①緊急診療(内科)の開設 ②分娩を行える施設の開設 ③在宅医療への支援 ④医師や医療スタッフ確保への支援
(3) 人材の育成 石岡地域の医療機関に従事する医師や医療スタッフを育成するための取り組みを行います。 ①石岡地域出身医師による中学生への出前授業 ②石岡地域在職の看護師による中学生への出前授業	(4) 医療ニーズの把握と情報の発信 少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の拡大など、医療を取り巻く環境が大きく変化する中、真に必要な医療体制の構築のため、行政と市民の意見交換の場を設けます。 ①地域医療ご意見箱設置 ②市報やHPの定期的な情報発信 ③医療に関するシンポジウムの開催

一、地域医療対策事業について
(1) 地域医療環境の調査
 石岡市が第一病院を買収・公立化し、加えて石岡医師会病院の病床を譲り受けて199床の石岡地域医療センターを設置しようとする「石岡地域医療計画」は昨年1月、協力を求めた医療法人が撤退を表明し暗礁に乗り上げました。理由は、コロナ禍による医療環境の激変ですが、市議会の度重なる批判・反対(否決)が影響したと伝わっています。公立病院化は事実上のとん挫となりましたが、医療環境の改善は進めるべき行政課題であります。このことから地域医療の環境・資源を再調査し、石岡地域医療計画の見直しを行ってきました。

(2) 地域医療対策の取組みの方針
 調査及び市民アンケート等の分析に基づき、石岡地域医療計画の見直し案がまとまり、文教厚生委員会に報告されました。4本のテーマを掲げ、石岡地域の医療環境の把握を行い、目標達成に向けた具体的な取り組みが始まります。

(3) 石岡共立病院(医療法人幕内会)が開院
 当初の石岡地域医療計画案では、石岡医師会病院の病床を40床譲り受け、事業拡張を予定していた医療法人幕内会(山王台病院)が石岡医師会病院(病床120)を買収し、令和4年2月1日から「石岡共立病院」の名称で診療を開始しました。

内科・外科・小児科等の計8科で診療を開始し、医師数は、常勤3名、非常勤6名の体制となります。内覧会で院内を見学しました。壁や廊下は明るい色調に変わり、病室も整備されていました。幕内理事長談によれば「手術はしない。開院時は10名ほどの患者を受け入れるのが精一杯。・・・建物は古いが費用の面で改修等は難しい。2年後ぐらいをメドに病床を山王台病院に統合したい。」とのこと。外来診療と回復期治療、加えて健診機能をメインに運営されていくものと思われれます。

(4) 地域医療計画推進に向けての模索
 石岡地域医療計画策定時の主たる目標は、緊急診療の充実と産科の設置です。石岡第一病院という資源を核とした公立病院化がとん挫し、続いて医師会病院が閉院した中で、石岡共立病院の開院は病床及び診療機会確保の点で朗報と言えます。しかし、緊急診療と産科設置は実現していません。

石岡共立病院開設の話が伝わり、公立病院化に反対した方々は民間病院活用で地域医療の充実ができた!と思ったようですが、診療開始後に市民から出た声は「産科は、緊急診療は。」の声です。



一、第4回定例会で行った一般質問

(1) サイクリング王国茨城への対応

茨城県では「サイクリング王国茨城」をアピールしており、市内でも多くのサイクリストが颯爽と走行する様子が目につきます。サイクリング王国茨城と石岡市のりんりんタウン構想をどのように関連づけて地域活性化を進めるのか質問します。

(1) サイクリングコース設定と案内について伺う。

経済部長答弁要旨 石岡市に関わるコースは、国土交通省がナショナルサイクルルートとして全国初指定を行った全長約180kmの「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の一部区間となっている。

市長公室長答弁要旨 案内看板については、県で定めた自転車走行環境整備ガイドラインに沿って適宜実施してまいりたい。

(2) ゆりの郷等に無断駐車しているケースもあるが、サイクリスト利用の駐車場確保について伺う。

市長公室長答弁要旨 土・日・休日の市役所・八郷総合支所の駐車場利用を促す広報活動を行いたい。

(3) サイクリストが求める情報提供について伺う。
市長公室長答弁要旨 サイクリングマップの配布を行い、茨城県サイクリストにやさしい宿として市内では4施設が認定されている。ホームページ、フェイスブック等での広報活動も行っている。

再質問 市ホームページで、観光課・スポーツ振興課・政策企画課がコース紹介をしているが、全く連携していない。今の機会を逃さず情報発信をどう進めるのか、統括情報管理者である副市長に伺う。

副市長答弁要旨 魅力発信がこれだけできなかったことは残念。石岡をサイクリング王国の一翼を担うような存在になるよう取り組んでいく。

提言 りんりんタウン構想は、政策企画課ではなく、そろそろ事業部門に所管替えし、責任の所在を明確にする事も一つの考えだと思えます。

(2) 緊急メモの利活用について

石岡市では、持病を持つ高齢者が、持病やかかり付け医の情報を書き込んだ緊急メモを用意する制度があります。体調の急変に伴い救急搬送される際に、この書類を救急隊員等が確認し、迅速かつ的確な医療機関搬送を手助けするものです。緊急メモの役割と効果が狙い通り確保できているのか質問します。

(1) 緊急メモの利用の仕方について伺う

保健福祉部長答弁要旨 メモには、氏名、生年月日、年齢、血液型、かかり付け医、服用薬、既往歴ほか市役所等連絡先を記載。保管場所は電話の近くとなっており、医療機関搬送の際に利用される。民生委員の協力で配布は総数1万件を超えている。

(2) 緊急メモの活用と効果について伺う。

消防次長答弁要旨 令和2年中では65歳以上で住宅内からの搬送件数は1,209件。利用者によりメモの置き場所が異なる事から、**救急隊が発見できない事があり、利用は搬送件数の1割に満たない。**

(3) コードレス電話の時代なので発見できないのは当然。救急に役立つ医療情報の準備について伺う。
保健福祉部長答弁要旨 緊急メモを目立たせるためオレンジ色の用紙に変えた。保管場所の統一も含め改善していきたい。

再質問 緊急メモの作成配布は包括支援センター、使うのは救急隊。メモを活用するなら冷蔵庫に貼るか透明な筒に入れ「救急医療キット」と同じように冷蔵庫に入れるべきと考えるが見解を伺います。

消防次長答弁要旨 緊急メモを統一的な保管場所に置くことは、現場滞在時間の短縮につながる。市長答弁要旨 出てきた問題点をどのように解決できるか、導入について検討を進めてまいりたい。

※議会終了後、市長の迅速な指示により、緊急メモの印刷変更が行われ、今年から緊急メモは冷蔵庫に貼り付けになりました。

(3) 多面的人事評価の導入について

人事評価システムを導入して10年が経過。しかし、人事評価システムが機能しているのか疑問の点が散見されます。評価者である管理職員を同僚部下からも多面的評価により見定める必要性があるものと感じ質問します。

(1) 人事評価システムの効果と課題を伺う

総務部長答弁要旨 毎年度、研修を行い制度の充実や安定性を高めており、職責に応じた必要能力を明確にすることで職員個々の不足能力を把握、育成し、努力と成果を処遇に反映させ、モチベーションのアップにつながると考えている。

再質問 人事評価の課題をどうとらえているか伺う。

総務部長答弁要旨 制度としては安定していると考えている。しかし時代の変化に伴い、人材育成や職場環境の改善につながっていない課題もある。

(2) 多面的評価方法の導入について伺う

総務部長答弁要旨 多面的評価は、同僚や部下から360度で評価を受けると認識している。課題は、業務量増大、様々な主観が入り込み絶対評価に大きな差が生じる。効果は、透明性や信頼性の確保、客観性や納得性が向上し、管理職と部下との信頼感の醸成等、構造改善を支援する仕組みができると考えている。

再質問 自己評価をこれで提出しると部下に指示している管理職がおり、既に一部では人事評価が形骸化している。多面的評価の導入について伺う

総務部長答弁要旨 県内市町村での導入実績は確認できていない。職員提案で導入の声が上がっている事を踏まえ制度設計を行い、試行的にでも実施できるよう検討したい。

市長答弁要旨 手当や昇任昇格に直結しない、マネジメント能力の向上に資する多面的評価の導入ができないか検討を指示したい。

三. 本庁舎駐車場の改修について

(1) 出入口増設予算を可決

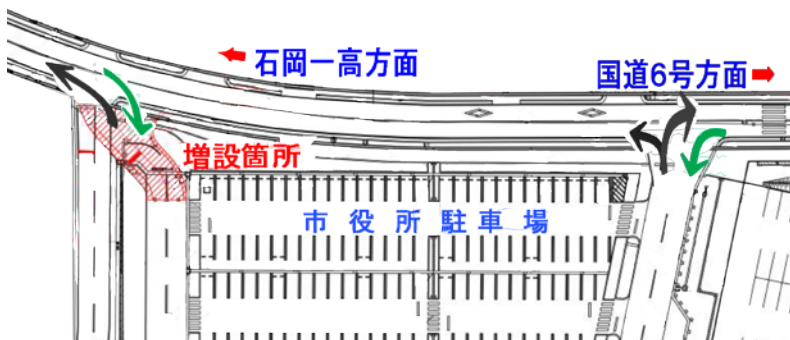
補正予算案に市庁舎維持管理経費として駐車場改修工事298万円余が提案されました。

本庁舎駐車場から市道に出る場合、出口は一か所のため、右折車が渋滞等で停車してしまふと後続の左折車は、待たされてしまいます。

本庁舎建設を控えた平成27年11月、駐車場の設計図面が総務委員会に示され、当時、総務委員会所属の私は、「石岡一高側の出入り口から駐車場に入るにはS字状のクラックの為、右折で入ってすぐにハンドルを左に切ることになり危険である」と指摘。しかし、設計が見直されることは無く、平成30年1月の新庁舎オープン以降、一般車の出入り口を閉鎖していました。

その後、総務委員会審査において、各委員から駐車場の出入り口の増設要望が出される中、ようやく改修案がまとまり予算案が提出されましたので、議案質疑を行い、整備概要を確認しました。

改修場所は、閉鎖中の石岡一高側出入口を緩やかなカーブに改修し、一般駐車場へ誘導する部分をカラー舗装とする。公用車駐車場との交差部分については、公用車が一時停止し安全確保を図ります。工事は完了は5月末を予定しています。



四. 市道整備について

(1) 県営農村交流基盤整備事業

石岡市小屋の葦穂小学校前から豊後荘病院近くまでを結ぶ約5kmの市道は、県営農村交流基盤整備事業として、市が工事を進めてきました。

葦穂小学校前交差点から東に進み、県道64号線までの1.7kmは平成22年に開通しています。

豊後荘病院付近から野田地区の県道42号線交差点を結ぶ約1.8kmが平成28年に完成。次いで令和元年にこれを西に延長し、恋瀬川手前までの844mを整備。この度、未整備区間655mは、恋瀬川に架橋し、県道64号線と接続して全線開通となりました。

台風や大雨の際に、恋瀬川の越水等で柿岡地内の道路が通行止めになる事がありますので、う回路としても役立つと思います。

全線開通後に「ふれあいの里」を起点に、ギター館前を通過、葦穂小学校交差点までの景観美しい道路、約9.7kmを車で走行しました。混雑する場所も無く、約12分程度の走行でした。

総事業費は約17億円。石岡市の負担は1/4です。今後も補助事業を活用した道路整備が進むことを求めています。



五. 消防本部の条例違反(その後)

(1) 調査結果の報告

消防本部の条例違反行為を指摘し、消防長が長年にわたる職員への手当未支給を認めた件(活動報告第26号記載)について、その後、関係資料の調査が行われ、12月に開催された総務企画委員会に次のような調査結果が報告されました。

① 条例違反の開始時期はいつか

文書が保存されている5年間は未支給運用になっている。合併当初(平成17年)からの運用なのか、聞き取り調査でも確認できなかった。

② 対象者数及び未支給額は

報告されたのは表の青色部分。過去5年間の保存データに令和3年4月から10月までを加えた合計5年半年分の概算となります。

③ 未支給者への対応は

弁護士相談を交え調整中と答弁。

(2) 職員に説明せず遡及は2年

総務企画委員会が2月2日に開催され、消防本部総務課(加害者)は「時効があり2年間の遡及(黄色の部分)支払う」と民法を盾に説明しました。しかし、被害者の消防職員には何の説明もしていません。職員の受給権を一方的に剥奪し、未支給の支払い額を検討する際も、再び被害職員を置き去りです。その上、意図的な条例違反を行った幹部職員の責任の所在には全く触れていません。ダメ押しは、今期定例会で夜間特殊業務手当廃止に向けた条例改正を提案しています。これでは、条例違反の未支給を正当化する組織的行為と感じざるを得ません。

未支給手当	条例規定の金額	人数・金額	遡及分
夜間特殊業務手当(22時~5時)	活動時間に応じて410円から1,100円	約8,200人 約370万円	約3,300人 約152万円
緊急走行運転業務手当	1回 150円	約12,000人 約180万円	約4,230人 約63万円

六. 第1回臨時議会 (1月12日)

(1) 提案された補正予算

補正予算は、住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業及び子育て世帯臨時特別給付金給付事業の追加分そして新型コロナウイルスワクチン接種事業(集団接種及び5歳から11歳の小児ワクチン経費)です。いずれも原案可決となりました。

(2) 議案質疑における答弁の信用性

先輩議員の議案質疑に対して、3回目のワクチン接種として2月から7月の日曜・祝日に石岡運動公園体育館を会場に集団接種を行うとの説明がされました。この集団接種に関して、私は、2番手で議案質疑を行いました。

(1)石岡運動公園体育館は、県大会や全国大会予選会場となっている。利用者への説明について伺う。保健福祉部長答弁要旨 予約は無く、教育委員会から利用予定者に十分に説明したと確認した。どうしても使用する場合には、一度撤去して再度設営の予算も見ている。

再質問 期間中は平日も利用できない。市民からの情報では、教育委員会は一方的に通知しただけで、十分な説明はしていない。市長の見解を伺う。

市長答弁要旨 年間スケジュールを事前に調査しており、市民の皆さんが不便の無いよう検討する。

提言 大会の開催とワクチン接種がどちらも成り立つようご検討願います。

※臨時議会には、コロナ対策として教育部長が出席しておらず答弁を求めることができませんでした。文教厚生委員会を1月20日に開催し、石岡運動公園体育館の利用予約について確認したところ、担当課長は「1月25日に関係団体との日程調整会議を行う」と発言し、臨時議会答弁とは違い未調整だった事が判明しました。そのため、文教厚生委員長として「議会答弁は、十分な調整と情報を吸い上げて整理することを求めたい」と苦言を呈しました。

七. 第2回臨時議会 (2月3日)

(1) 提案された議案

提案されたのは補正予算案2議案と国指定史跡瓦塚窯跡を購入し公有地化する議案です。

議案質疑において問題視されたのは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金647万9千円です。コロナ禍により営業自粛を求められ収入減となった市の施設「やささと温泉ゆりの郷」の指定管理者である「やささと農業協同組合」に対する全額国費の予算です。

(2) 議案質疑の内容

複数の議員が議案質疑を行い、その主な内容は、民間事業者の多くも苦しんでいるのに、石岡市の施設運営を委託している事業者にだけ支援するのはいかがなものか。農協との協定書にある「入場者数の増減を理由とした支援は行わない」に違反している。等々でした。民間事業者支援は別の制度でも実施されており、同列に論じることには無理があります。また、営業自粛を決めたのは石岡市であり、協定内容に反していない事は明白です。更に問題なのは、議案に関係ない質問は認められないはずが、高野議員からの「ゆりの郷を売却するのか」という質問を議長が容認したことです。市長は「検討する」と答弁しましたが、無秩序な議事進行が繰り返されている現状が憂慮されます。

(3) 採決の結果は原案可決

採決は、菱沼議長を除く出席議員18名により行われ、賛成多数で原案可決となりました。

賛成議員 13名	飯村一夫
	新田 茜
	川井幸一
	櫻井 茂
	石橋保卓
	玉造由美
	勝村孝行
	谷田川泰
	小松豊正
	村上泰道
	関口忠男
	池田正文
	岡野孝男
反対議員 5名	鈴木康仁
	山本 進
	徳増千尋
	高野 要
欠席	岡野孝雄

八. 霞台厚生施設組合

石岡市・小美玉市・かすみみがうら市・茨城町の3市1町から排出されるゴミを処理する霞台厚生施設組合の新しいごみ処理施設「霞台クリーンセンターみらい」が令和3年4月から操業を開始しました。旧施設を稼働しながら新施設の建設用地確保のため、併設されていた余熱利用還元施設(入浴施設)である「白雲荘」は取り壊しとなっており、これに代る地域還元施設「みらい交流館」の建設は、11月9日に入札が行われ、石岡市の平成建設(株)が5億7千4百万円(税抜き)で落札しました。工期終了は、令和5年2月28日となっていますので、工事が順調に進んだ場合、オープンは令和5年春頃と思われる。

九. 令和4年第1回定例会

会議は全て午前10時開始予定です。日程表の黄色の会議は、石岡市議会ホームページからネット利用の生中継を視聴できます。録画放映は、会議後10日前後で視聴可能になります。今期定例会は代表質問にも注目して下さい。

第1回定例会日程

月 日	曜日	会 議 内 容
2月22日	火	開 会
23日~26日		休 会
2月28日	月	代表質問
3月1日	火	一般質問
3月2日	水	一般質問
3月3日	木	一般質問
3月4日	金	議案質疑
5日・6日		休 会
3月7日	月	予算特別委員会 (総務企画)
3月8日	火	同上(文教厚生)
3月9日	水	同上(経済建設)
3月10日	木	同上(総括)
3月11日	金	文教厚生委員会
12日・13日		休 会
3月14日	月	総務企画委員会
3月15日	火	産業建設消防委員会
3月16日	水	議会運営委員会
3月17日	木	採決・閉会